

# 「自力で解けた！」を支えるICT活用

教科 理科  
科目 物理基礎

## ・改善の内容と実施方法

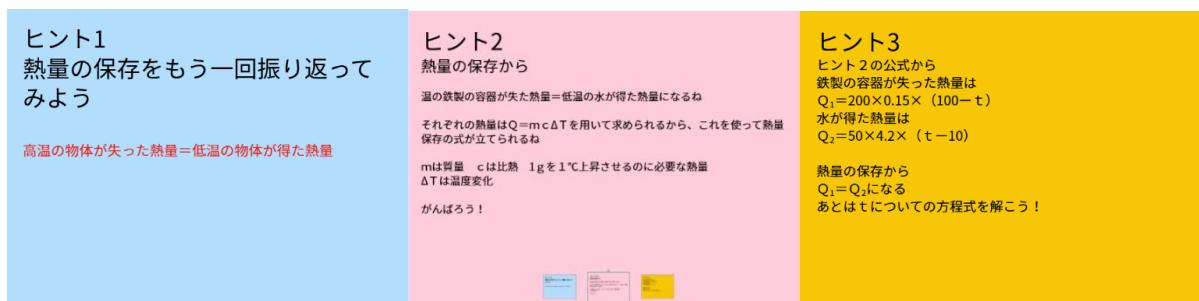
授業終末の定着確認において、ロイロノート・スクールの資料箱内にレベル別ヒントカードを配備し、個別の学習状況に応じた支援を行いました。これにより、生徒が自らの進度に合わせてヒントを選択できる環境を整え、個別指導の充実を実現しました。

## ・ヒントカードの色分け

青色カード（レベル1）：公式のヒントや問題の解き始めに関するヒント

赤色カード（レベル2）：解き方の手順や図、途中式の解説

黄色カード（レベル3）：答えを導く一歩手前までの解説や途中式の提示



（ロイロノート・スクール「テキスト」カード機能を利用したヒントカード）

まず、生徒は自力で定着問題に取り組みます。問題を解く中でつまずいた際には、ヒントカードを順番に確認し、可能な限り自分の力で正解を導き出せるようにします。

## ・まとめと振り返り

ロイロノート・スクールの「テキスト」カード機能と「提出箱」機能を用いて、授業の振り返りを行います。定着問題を解く際に参照した「ヒントカード」のレベル（色）のカードを提出させることで、教員が個々の生徒の学習状況や理解度を細やかに把握する事が可能になります。

## ・ヒントカードの色分けと連携した振り返り

白色カード ヒントを見ずに解くことができた

青色カード ヒント1を見たら解くことができた。

赤色カード ヒント2を見たら解くことができた。

黄色カード ヒント3を見たら解くことができた。



(ヒントカードの色分けと連携した振り返り)

- ・主な効果

## 個別指導の充実化

従来、机間指導に費やしていた多大な時間を、ヒントカードの導入によって大幅に削減する事が可能となりました。これにより、目標の達成が困難な生徒への個別指導に十分な時間を割けるようになり、指導の重点化を図ることができます。また、生徒が自身の状況に合わせてヒントカードを選択することで、課題解決への心理的ハードルが下がり、主体的に学習に取り組む姿が多く見られるようになりました。

## 学習状況の可視化

教員は、提出されたカードの色を確認するだけで、生徒一人ひとりの学習到達度を瞬時に把握できるようになりました。これにより、個別のフォローアップの必要性や、次回の授業における全体共有のポイントがより明確になり、指導の質の向上につながっています。

## ・まとめと今後の展望

今回の試みを通じて、ICTツールを活用することが「個別学習の充実」と「学習状況の把握」の両面において、極めて有効であることを確認できました。今後は、ヒントカードの内容をさらに精査・充実させるとともに、色分けされた振り返りカードを基にした効果的な個別フィードバックの手法について、さらなる改善と工夫を重ねてまいります。